

広報

おまぐ

2017

11

No.154

Autumn color

がんばる大洲っ子

サッカーを続けていくために

三善小学校 6年

柳野 宙さん



私は、2年生から始めたサッカーを頑張っています。現在は、男女混合の三善サッカースポーツ少年団と、県内のサッカーをしている女子で結成された菅田SSSパンサーズの2チームでプレーしています。男子と同じフィールドで試合をすることもありませんが、特に気にしたことはありません。私は、ミッドフィールダーと呼ばれるポジションを任せられ、攻撃と守備の両方に参加しています。私は体力にあまり自信がないため、これから体力をつけて、もっと活躍できるようになりたいです。

これからの進路として、なでしこリーグへの挑戦を考えています。将来の夢であるサッカー選手になるためにも、この挑戦は欠かせないと思います。入団するには、いくつか試験を合格する必要があります。これからも父の指導のもと、もっと自分を磨いていきたいです。

11月の納税など 納期限は11月30日(木)です。

税 別	11月	12月	1月	2月
市 県 民 税		4期		5期
固 定 資 産 税	4期		5期	
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	5期	6期	7期	8期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	44,379人 (- 50)	件数 80件(122件)
男	21,212人 (- 13)	死者 2人(2人)
女	23,167人 (- 37)	負傷者 103人(156人)
世帯数	20,138世帯(- 3)	

(2017年9月末現在)

CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	(特集1)第3期清水大洲市政スタート
6ページ～	(特集2)菅田に石斧を多量に製作した弥生遺跡か
8ページ～	おおずニュース
10ページ～	シリーズ
12ページ～	おしらせピックアップ
22ページ～	情報ひろば
24ページ	集まれO級若モン
25ページ～	図書館・保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと (白滝 森川純行さん)

今月の表紙



紅葉の季節です。緑に染まっていた山肌が、赤や黄色に変化し、市内の至るところがキャンパスとなります。

撮影：別宮 康夫さん

(特集1)

第3期清水大洲市政スタート



9月5日(火)、清水市長が当選後初登庁し、市役所職員に対し、訓辞を述べました。

「きらめくおおず
くみんな輝く肱川流域のまち」
の実現に向けて

8月27日に告示された大洲市長選挙において、引き続き市政3期目の重責を担うことになりました。これからも、大洲市の発展のため全力で市政に取り組んでまいります。

3期目の抱負

今、人口減少社会が到来し、社会保障費が増大していくなかで、公共施設やインフラの老朽化対策、これまでの想定を上回る台風や豪雨による自然災害、南海トラフ地震への備えなど、大洲市を取り巻く社会情勢は一層厳しさを増しています。

そのなかで、大洲市の将来を考えた時、特に若いみなさんが、この地域の素晴らしさを実感し、文化を継承しながら、新たな夢や希望を持ち、未来に向かって共にチャレンジし定住していけるよう「人・文化・自然がいきるまちづくり」を進めていくため、次の5つの目標を掲げています。

安全・安心・活力のまちづくり

山鳥坂ダム建設、堤防の整備、河床整正など肱川流域の治水対策を推進していきます。あわせて避難場所や避難経路における身近な道路整備、消防団をはじめとした地域防災体制の充実強化を図り、今後起こりうる大規模災害に対応できるような対策を講じていく考えです。

また、現在暫定2車線となっている松山自動車道「松山IC」〈大洲IC〉は、南海トラフ地震などの大規模災害発生時には、避難や救急搬送、さらに支援物資を運搬するのに必要な「命の道」となるものであり、全線4車線化の早期実現に向けて取り組みます。

産業が息づくまちづくり

地域産業の活性化、雇用の安定、就業機会の確保に努め、希望をもって安心して働くことができ、定住できる環境を整えていきます。

これまでも、四国一の生産量を誇る「栗」や「乾しいたけ」をはじめ、市内で製造された商品や特産品をブランド化する「大洲ええモンセレクション認定制度」により、大洲産品の知名度の向上と新たな特産品の開発、6次産業化を推進し、認定した産品を首都圏で販売できるような販路開拓に努めてまいりました。このような地域の特色を生かして高い値段で売れるものづくりや付加価値の高い加工品作りをさらに推進し、基幹産業である農林水産業で働くみなさんの所得向上につなげていくとともに、引き続き優良な企業の誘致活動を行っていきます。

住み続けたいまちづくり

誰もが生きがいをもって、安心して健康やかに暮らせるよう、保健・医療・福祉の充実を図り、特に、大洲市の将来を託す子どもを育てる環境を整えていきます。安心して子どもを産み、育てる環境を整備し、女性が社会で活躍する場を増やすとともに、子どもたちが大洲を誇りに思えるように大洲らしさのある教育を進めていきます。

また、高齢者のみなさんが健康を保ち、元気に地域で活躍できるよう、介護予防事業、中山間地域における医療対策とあわせて、公共交通空白地の交通手段を確保していくため、地域公共交通体系の整備を進めていきたいと考えています。

さらに、老朽化した市民会館や公民館など市民のみなさんが活用される施設の適切なりニューアルを進め、地域に根差



した文化やスポーツの拠点づくりと振興を図っていきます。

人が行き交うまちづくり

大洲市には、重要文化財の長浜大橋や臥龍山荘、ユネスコ・アジア太平洋文化遺産保全賞最優秀賞を受賞した少彦名神社参籠殿などの文化財や、肱川あらし、鹿野川湖や伊予灘の海岸線、肱川沿いの豊かな自然、龍馬脱藩の道、うかい、いもたき、長高水族館など、全国に誇れる豊かな地域資源があります。この魅力を広く発信していくことで、国内外からの観光客など交流人口の拡大につなげ、インバウンド対策やおもてなし観光の充実を図っていきます。

また、大洲・八幡浜自動車道が完成すれば、フェリーを経由して九州から京阪神まで、すべての間が高速交通網でつながり、さらなる交通量の増加が予想されます。現在、伊予灘サービスエリア以南には、サービスエリアがなく、高速道路を利用した観光客などのエントランス機能が不十分です。そのため、市内にサービスエリアの機能を持たせた、新たな「道の駅」の整備を行い、地域産品の販売拠点施設の整備を進め、同時に、「伊予灘ものがたり」や特急列車による来訪者に対するおもてなしができるよう、JR伊予大洲駅のエントランス機能も強化し、観光の玄関口を整備していきます。

地域が息づくまちづくり

長浜地域においては、水族館整備に対する期待が高まり、第3次開発事業とあわせて、人と魚が触れ合える、新しい形の水族館構想を前進させていくことも重要な課題であると考えています。また、肱川地域では、えひめ国体のカヌースプ

リント競技の会場にもなった「鹿野川湖」を生かした観光促進、河辺地域においては、「ふるさとこの宿」の活用推進など、その地域の歴史や文化、自然を生かし、地域が元気になるまちづくりを進め、地域振興とにぎわいの創出を図っていきます。特に、中山間地域の自然や豊かな地域資源を活用した新たな特産物の開発を支援し、あらゆる地域が元気になるよう特色や個性を生かした地域づくりを進めていきます。

市民のみなさんとともに

公約に掲げましたように、3期目においても「チェンジ・変革」「コラボレーション・協働」「チャレンジ・挑戦」の3つのCをまちづくりの基本として、市民のみなさんとともに力をあわせ、この地域で夢や希望を叶えることができ、そして私たちの次の世代、子どもたちや孫の世代においても、大洲市に住み続けたいと思えるような活力あるまちづくりを進めてまいります。

今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



(特集2)

菅田に石斧を多量に製作した弥生遺跡か

～「むらしまみや村島宮くびの首遺跡」4次調査の成果より～



柱を立てた痕跡とみられる柱穴

また、土器や石器類が多数出土しましたが、なかでも石斧類の多さが特徴的です。

大洲市教育委員会は、菅田町村島に所在する弥生時代中期（約2千年前）の遺跡「村島宮の首遺跡」の具体的様相の解明などを目的に、平成26年度から調査を実施しています。今年度の調査では、傾斜地を削って平坦面を作り出した「段状遺構」が4カ所で見つかりました。そのうち、幅8・6mある大型で半円形の遺構からは、火を使った跡とみられる炭化物や、柱の痕跡が複数見つかるなど、居住空間であった可能性があると発表されました。



出土した弥生土器の破片



出土した弥生土器（つぼ）



出土した石斧や石斧の未成品

大洲市には、村島宮の首遺跡のほかにも多くの遺跡、史跡が残されています。それらの痕跡から、当時の人々の活動や様子を思い浮かべてみると、新たな発見ができるかもしれません。

と話しています。

この遺跡で石斧が製作された可能性がより高まったといえる。しかし、実際に石斧を製作した工房跡の発見や、石斧の材料となる石材の採取場所を特定するには至っておらず、今後解明すべき課題である」と話しています。



出土した石器類

石器類は、打製のやじり、刃器、石錐などがあり、石器素材を剥ぎ取った石核なども出土しました。石斧類には、製作途中で破損した未成品のほか、加工する際に出土した石くずなども出土しました。また、これらを加工する際に使用したと思われる叩石、砥石なども発見されています。

これまでに出土した石斧やその未成品は、四国随一の出土数を誇り、全国的にも数少ない石斧製作集落だった可能性が考えられます。市教育委員会の学芸員は「今回の調査でも、石斧製作の手がかりとなる遺物が多数見つかり、この遺跡で石斧が製作された可能性